

理事会セッションの概要

学協会は福島復興と廃炉推進に向けてどのように貢献すべきか (1) 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会の設立について

駒野 康男

日本原子力学会長

日本原子力学会（以下、本会）は、接点のある学協会に対して、相互の情報交換を行い、福島復興と廃炉推進に貢献する活動の一層の効果的・効率的な実施・推進を図ることを提案し、平成 28 年 5 月 20 日、33 の学協会が集い、「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会」（以下、ANFURD）が発足した。（現在、36 学協会が参画）（<http://www.anfurd.jp/index.html>）

福島原子力発電所事故（事故）後の取組みとしては、本会はもとより、多くの学協会での活動がそれぞれ展開されてきた。福島復興と廃炉推進に向けて志をもったこれらの学協会が、互いの活動を知り、ニーズを把握し、連携することで、事故後の取組みで得られた知見を整理し、課題にどのように取り組むべきかについて広く社会へ情報発信することで、学協会連絡会への期待に一步でも応えることができると考えられる。

ANFURD では、これまで情報交換会とワークショップを開催した。情報交換会において、互いの活動を報告し合い、さらにワークショップにおいてニーズを共有し、連携活動を具体化するための議論を行った。これらの活動により、まず取り組むべき課題として社会的にも関心が高い次の 3 つが挙げられた。①「放射線被ばくと健康・コミュニケーション」（福島復興）、②「トリチウム水の取扱い」（福島復興・廃炉推進）、③「燃料デブリ取り出しにおける潜在的課題」（廃炉推進）。

この度、これらの課題について、それぞれ勉強会を開催し、集中的に議論して論点を整理した上で、ANFURD としての見解やどう取り組むべきかをまとめたので報告する。さらに、本会の福島特別プロジェクトと廃炉検討委員会からの ANFURD の取組みへの期待や連携の在り方についてのコメントを踏まえ、セッション参加者との質疑応答により、ANFURD の取組みについて参加者の理解を得るとともに、頂いた意見を今後の ANFURD の活動に役立てていく。